

組織目標評価報告書(2019年度)

部局名:

歯学部

部局長名:

浅海 淳一

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番 号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
1. 入試の実施状況 入試倍率3.0倍以上を目指す。 2. 教育の実施体制 ①「歯学部教育点検・評価・改善専門委員会や外部評価の意見を踏まえ、教務委員会を核として、学生の意見を踏まえ、歯学部教育改革を推進する。 ②教員の指導者としての意識改革を目指すFDを企画・実施する。 ③外部評価による「教育の質保障」に関するPDCAを組織的に実施するための体制を整備する。 3. 教育方法・内容 ①海外大学等との学生交流を進展させ、グローバル化を推進する。 ②研究室配属等を充実させ、学生の研究マインドを向上させる。 4. 教育の成果 ①歯科医師国家試験の高い合格率の維持を図る。	1① 6② 16② 17①【17-1】 25② 52② 54④ 59①【59-2】 60② 84①	1. 入試の実施状況: 前期試験の入試倍率は2.4倍で、目標値には届かなかった。大手予備校が発表する岡山大学歯学部の予想偏差値が上昇したことや共通テストへの移行で受験生の安全志向が高まったことが要因と考えられる。 合格者のセンター試験の最低点は、推薦、前期、後期を含めて例年並みで質の担保はできた。 2. 教育の実施体制 ①2016年から 歯学部教育点検・評価・改善専門委員会 を開催している。2019年からは学生も参加している。2020年度は、AP・CP・DPの点検、解剖学カリキュラムの変更、数理・データサイエンス教育の授業科目の開講について審議を行った。学生からの質問や要望が出され回答した。 歯学部のポリシーは全学の中でも優れているとの評価を得ている ことから適正に運営されていることがわかる。 ②「2019年度歯学部運営方針説明会」、「歯学部の教育戦略」、「医学部・歯学部共同ワークショップ～講義を面白くしよう～」、「死生学・認知症講義～終末期の歯科医療～」、「在宅・訪問歯科シンポジウム」の5回のFDを実施し、201名の参加を得た。 ③2017年に 歯学部教育点検・評価・改善専門委員会 による 検証評価 を受け、外部評価による「教育の質保証」に関するPDCAを組織的に実施してきた。今後は設置に向かって進んでいる 歯学分野における専門分野別第三者評価機関の評価を受けPDCAを組織的に実施して行く 予定である。 3. 教育方法・内容 ①ODAPUSプログラムは2001年からスタートし、2012年からは双方に向けた。当初は3年生対象であったが、2017年からはすべての学年で可能とした。 2019年度には3年生を32名(80%)派遣し、入人も25名 であった。 さらサイエンスプラン もベトナム、インドネシアの3大学の学生と教員が3週間程度学生・教員プログラムを実施した。12月に 第4回岡山医療教育国際シンポジウムを開催し 、国外からも11名の部局長を招き、海外留学生を交えて、講演や発表、ディスカッションを行い、さらなる国際交流、共同研究につなげる機会を得た。 ②研究室配属も単に研究するだけではなく、 学会発表や論文発表を行っている 。共著者のみならず筆頭著者として2018年には3年次の自由研究演習で、国立感染症研究所で研究に従事した成果に基づき、 4年生がアメリカの一流専門雑誌Journal of Clinical Microbiologyに筆頭著者として論文を発表した。 4. 教育の成果 ①2019年度国家試験合格率は88.7%であった。合格率が出願者ベースで55%程度、受験者で60%台の中で、 ここ10年間90%近い合格率をあげている。6年ストレート合格率もここ数年は、全国1～2位の実績があり、優秀な教育成果をあげている。
②研究領域		
	関連する 年度計画の番 号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
大学院歯学総合研究科 歯学系に統合		
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番 号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
1) 地域に対する社会貢献の体制を確立、発展させ、地方との連携を拡大・強化する。 2) グローバル化に対応するために、協定締結を推進し、すでに締結されている交流をさらに活性化し、国際交流プログラム(ODAPUS)を拡充する。	49② 50① 51① 52② 53③ 54④ 57③【57-2】	1) ① 岡山県、岡山市における歯科保健計画の実施状況を評価 するとともに、次年度に向けての行動目標を設定する作業をおこなった。② 製作保健所管内の市町村において、歯科保健対策を策定 するとともに、栄養士会や愛育委員会などの団体および難病患者の家族を対象とした研修会を企画した。③岡山市内の小学校児童と高等学校生徒に対して、歯科保健の講義と実習を行った。④岡山県内各市町村の教員(幼稚園、小学校)を対象に、う蝕予防対策の具体的な方法について情報提供し、 学校保健の充実に努めた。 2) 岡山大学は2014年にスーパーグローバル大学創成支援の対象大学として選ばれたが、 歯学部はそれに15年先んじて1999年に歯学国際交流演習・ODAPUSプログラムをカリキュラムに選択必修科目として取り入れ、今日まで継続実施している。 開講当初ODAPUSプログラムは3年次学生のみを対象とした選択必修科目のみであったが、これを2017年度から拡充し、夏季休業、春季休業期間を利用して全学年の歯学部学生を派遣できる体制を整備した。ODAPUS派遣学生数は、2019年度には32名と、 3年次学生の80%が海外留学生 を果した。ODAPUSプログラムに参加し、その後単位取得情報が指定された要件を満たした段階で申請を行うことにより「グローバル人材育成特別コース 学部・学科型」の修了認定を岡山大学グローバル人材育成院長名で受けられる。この制度の整備には2017年より着手し、2019年度からの実施を実現した。学生を海外に派遣するだけではなく、協定締結先の大学からの短期留学生も「ODAPUS for foreign students」という科目を設定し、 毎年20名以上の外国人留学生を積極的に受け入れており、そのために特別な教育カリキュラムを組んでいる。 教育の国際化のためには教員の国際交流も重要である。第3期中期目標期間中も岡山大学歯学部では 科学技術振興機構(JST)の「さらサイエンスプラン」のサポートを2017年から継続的に得て、ベトナムのハノイ医科大学とハフオン医科大学との教員交流プログラムを実施している2019年度は年間4名の教員を上記大学から3週間程度招聘した。 第3期中期目標期間中に、 学部・大学間協定を2019年に5大学と締結、拡充し、教育の国際化の基礎をより盤石なものとした。
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番 号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
上記①②③の達成に向けて部局運営体制を強化・活性化する。 1) 教員配置の最適化を進め、部局組織の活性化を図る。 2) 老朽化した歯学部棟改修に対して、将来的に歯学部教育に適した魅力ある計画を進め、改修実現を目指す。 3) コンプライアンス講習会への参加を徹底する。 4) 女性教員の採用・昇進および将来性のある若手人材の発掘・確保に努め、ダイバーシティを推進する。	13①【13-1】 16② 41② 55①【55-1】 【55-2】 68②【68-1】 69③【69-1】 70④【70-1】 72⑥ 87② 88③ 89① 93②【93-1】	1) 2027年には臨床系の教授がほぼ退職を迎え、2039年にはすべての教授が退職する予定である。2040年に向けての診療科および学部組織の最適化を進めている。まず今回は、 国際共同研究のプラットフォーム構築と口腔解剖学分野の次世代リーダーの育成を目的として、基礎系の2つの解剖系の講座を再編し新しく口腔機能学分野を設立 することを決めた。 2) 学長および病院長のご理解をいただき 文部科学省から二期工事の内まずは一期工事が認められた。 3階までの病院に関しては大学病院の歯科としての役割と地域からのニーズを鑑みその内容と規模に関して病院と相談しながら進めている。4階から10階までの学部部分に関しては、 共用スペースを多くとり、10階には学外からも使用できる共同スペースも設置 する予定である。必要に応じて必要などころが使用でき、また 収益がでるスペースも設けている。 二期工事ではさらなる魅力ある方向性を進める予定である。 3) コンプライアンス講習会に関しては日本学術振興会のe-learning、公的研究費等の不正使用防止に係るコンプライアンス教育の実施等を行い研究倫理教育に取り組んだ。 4) 女性教員 に関しては、今年度は研究科席で助教採用1、病院籍で講師昇任1、助教1の採用があり、現在、 教授1、准教授2、講師3 となり、女性教員の採用を進めている。外国人に関しては助教に男性1、女性1在籍している。また、口腔機能解剖学分野に海外経験の長い将来性のある有望な准教授を4月から採用予定である。人材が滞らないように、人事異動を活性化することにより、将来性のある若手人材の発掘・確保に努め、ダイバーシティを推進している。